

合同セッション

助成機関と出版者の研究データポリシー連携

RDA P17

2021年4月21日

共同プロジェクト 助成機関・出版者間ポリシー連携

- **IG Research Funders and Stakeholders on Open Research and Data Management Policies**
 - *共同議長*: David Carr (ウェルカム財団), Jeremy Geelen (カナダ保健研究機構(CIHR)), 小賀坂康志(科学技術振興機構(JST)), Dina Paltoo (アメリカ国立衛生研究所(NIH))
- **IG Data Policy Standardization and Implementation**
 - *共同議長*: Iain Hrynaszkiewicz (プロス(PLOS)), Natasha Simons (オーストラリアリサーチデータ commons(ARDC)), Simon Goudie (ワイリー), Rebecca Grant (シュプリンガー・ネイチャー), Azhar Hussain (英国情報システム合同委員会(Jisc))
- **WG FAIRsharing Registry – Connecting data policies, standards & databases**
 - *共同議長*: Susanna-Assunta Sansone (オックスフォード大), Rebecca Lawrence (F1000 Group), Peter McQuilton (オックスフォード大), Simon Hodson (科学技術データ委員会(CODATA)), Holly Murray (Health Data Research UK), Varsha Khodiyar (シュプリンガー・ネイチャー)

関心のある方の参加を歓迎します！

共同プロジェクト 助成機関・出版者間ポリシー連携

■ 目的

- － 助成機関と出版者の研究データポリシーの整合性を検証し、より整合性を高めるための提言を行う

■ 背景

- － 助成機関と出版者の研究データポリシーは、研究者によるデータシェアリングに影響を与え、またその動機にもなる
- － 研究データポリシーの効果を最大化するためには、助成機関間、出版者間に加えて、助成機関・出版者間でもポリシーの整合性が取られている必要がある
- － しかしながら助成機関と出版者間のポリシーの整合性については、比較的検討が遅れている

プロジェクト計画

Project validation at RDA P16

■ Phase 1 – 調査分析

- 助成機関と出版者の研究データ方針の整合性について調査分析

■ Phase 2 – 提言作成

- ステークホルダーを交え、現在のポリシーの整合性について議論し、これを向上させるための提言を作成
- コミュニティによる意見出しやレビューを提言に反映

■ Phase 3 – 提言の適用

- 提言を広く展開し、実装の方法を検討（パイロットプロジェクト等）、また提言がポリシーの整合性向上の取組にどう資するか検討
- FAIRsharing registry WGは、ポリシーひな形のプロトタイプを作成・提供、さらに多機関のポリシーを発見・検証可能(discoverable and comparable)化する